

洋書輸入協会会報

VOL. 12
NO. 1

(通巻 129 号) 昭和53年 1 月

謹んで新春の
お慶びを申し上げます

昭和 53 年 元 旦

理 事 長 飯 泉 新 吾



昨年は、政府の度重なる景気対策にも拘らず、内需は低迷し、むしろ、一層深刻の度を増し、書籍業界においても需要の停滞が顕著に見られました。また、円高傾向が続き、洋書業界はこのあおりをまともに受けて、各社共その対策に苦慮したと思います。洋書業界の歴史のなかで、国際経済の動きにこれ程強く影響されたことは、かつて例を見なかったものと考えております。

更に、科学技術情報の流通システムが変質しつつある一つの現われとして、日本化学情報協会と米国化学会との協力関係が大きくクローズ・アップ致しましたが、業界がその対策に結集出来たことは、今後、業界の權益を防禦し、発展を図る上での一つの方向性を示すものとして、大変有意義なものであると考えております。

このように、洋書業界も好むと好まざるとに拘らず、

理事長新年挨拶…………… 1	文化厚生委員会だより	来日外人名簿…………… 7
御挨拶 相良廣明…………… 2	「ゴルフコンペ」…………… 3	通関統計…………… 7
理事会報告…………… 3	ニューヨーク便り…………… 4	総代理店ご案内…………… 7
文化厚生委員会だより	海外ニュース…………… 5	広告 ユナイテッド・パブリッ
“囲碁納会”…………… 3	Book Review No49…………… 6	シャーズ・サービス社…………… 8

国際・国内の経済社会の変動に大きく左右される現状となつてまいりました。我国の貿易均衡に対する諸外国の攻勢が激化している中で、政府も円通貨の安定を目指して、本年度の経済成長率の目標を高水準に設定したものの、業界をとりまく環境は一層厳しさを増すものと予想

されます。それを乗り越えて業界の発展を図るに当り、結束を固めながら複雑な環境に対処し、ひいては、日本の学術文化の進歩に貢献することを強く念願し、簡単ながら新年のご挨拶と致します。

御 挨 拶

相 良 廣 明

明けましておめでとうございます。

昨年は、不景気と円高問題に明け暮れた一年でしたが、殊に後半は円が急騰し、通商問題で外国から日本への諸要求が殺到するなど、外圧をひしひしと感じさせられた年でもありました。

これらの環境の中で、洋書輸入協会の内外に諸問題が発生しましたが、これも協会メンバーがそれぞれ独自の色彩を、従来よりも色濃く滲み出させたためだと思われ

ます。円高相場がいつまで続くのかは、誰にも予測の出来ないことですが、少くとも今後暫らくはこの傾向が続くことでしょう。異常な円高のために、洋書輸入・販売の業界は、購読されるお得意先にはご理解を得られないような幾多の困難を内蔵してきております。しかし我我としては、未曾有の円高の今日こそ、安くなった洋書の購入をおすすめして、固定化した感じのある洋書の需要の壁を打ち破り、洋書マーケットの拡大をはかるべきときだと思ひます。

円高が未曾有のことであるように、我我も従来の考え方を逐次転換して、新しい観点を持ちこむことに臆病であつてはならないでしょう。そうしなければ、原価値上りとマーケットシェアの争奪に売上上昇の多くを頼つてきた内部問題も解決できないでしょうし、他業界からの参入と需要者の直接購読という外的問題にも対抗できないでしょう。

我我は今、世界の中の日本の地位が変りつつあり、日本の中の流れも変りつつある曲り角に立っているということ、そしてそれがこの2～3年の間に我我の業界にも確実に影響を及ぼしてきているということを感じとっています。

今年の進路を誤まらぬよう、将来への発展の基礎が築けるよう、そしてまた学術・文化の流通を担うにふさわしい品位と気魄を持続けるよう、自戒の意味をこめて以上を年頭のご挨拶と致します。

(紀伊國屋書店取締役)

理 事 会 報 告

11月28日（月）

- (一) 10月分収支計算予算対比表の検討。11月25日の総務委員会における審議結果が報告され、大体予算通りに進行していることが確認された。
- (二) 文化厚生委員会から来年の新年会について報告があった——1月10日5時からプレス・クラブ。
- (三) 同委員会から囲碁納会について報告があった——12月4日6時から紅萌クラブ。
- (四) 懇談会を早急にひらくことが提案された。
- (五) その他

12月16日（金）

- (一) Pergamon Press からサブスクリプションを10パーセント値上げするが通告があったので抗議することとした。
- (二) 化学情報協会交渉小委員会の報告にもとづき、同会に対する返書を検討した。
- (三) その他

文化厚生委員会だより

囲碁同好会納会

師走にはいつて早々の12月4日時本先生の六段昇段のお祝いをかねて本年最後の碁会を開きました。参加15名和気あいあいの中に本年も無事打ち納めました。

（例会は従来通り毎月、第一、第四月曜日です。ご参加下さい。）

（三洋出版 武田）



ゴルフ72会第16回コンペ

——1977. 12. 6 湘南C.C.にて——

およそ冬らしくない暖かい陽気のなかで72会も5年目を迎えました。メンバーの交流がだんだん和気あいあいになってきたのも、山川会長はじめ名幹事村山氏、上杉氏のおかげと感謝する次第です。

ところで今回の優勝は三善の大久保氏（H11、Net83）、第2位ゲーテの村山氏（H20、Net84）、第3位UPS客員の江波戸氏（H17、Net85）でしたが、少しゴルフを御存知のかたならこれが正式なコンペかと頸をかたむけたいなるスコアでした。おそらくNet83で優勝とは今後ともありえないでしょう。そう言えばこの一年間面白い現象がおきています。会長の山川氏はブービから優勝そして今回はメーカー、それにO氏の如きシングル級が1ホール15もたたき、ハーフ60と意外な記録があいついでいます。囲碁とちがってゴルフは何が起るかわかりません。別の見方をすれば72会こそまさしく親睦の集りです。キャディにスコアを考えずに親しんでおられると云われるくらいですから、いや愉快。ビギナー諸氏堂々と参加して下さい。

（伊藤記）

ニ ユ ー ヨ ー ク 便 り

奈 良 知 章

紀伊國屋書店のニューヨーク事務所が開設されたのが昭和47年4月で、JBIA メンバーでは当時すでにニューヨークに丸善（所長羽鳥氏）、北尾書籍貿易（岡本氏）の両社が事務所を設けられており、1年後には医学書院（下山氏）が開設された。

丸善羽鳥氏には、ご自宅にお招きいただき、奥様の料理をご馳走になったりして格別お世話になった。これだけメンバーが揃えば、JBIA のニューヨーク支部を結成したらどうかといった話も半ば真面目に話されたが、互いに多忙で、そのうち帰任する人など出て、立消えになってしまったのは残念である。

気違いじみたことが毎日起るニューヨークに5年もいれば、オドオドとケネディ空港に降りたった一人の東洋人の肝もずいぶん鍛えられ、少々のことでは驚かなくなっている。

日常相手にしている米国出版関係の人間には、舌を巻くほど優秀な人間もいる代りに、救いがたい程にお粗末、無責任な人間もいて、日本のように全員の平均点が高いという訳にはいかない。

仕事をはなれてつき合う一人一人は人なつこくて、実に人がいい。それが仕事となると途端に不機嫌になるのは何故だろうか、声も出ないほどに驚き、あきれ、怒り心頭に発する小事件は日常のこと、ニューヨークで仕事するかぎり、アメリカ・ボケなど思っている余裕はない。Culture Shock による胃かいようの方が心配である。

深刻な苦情をある大手出版社の女性 Circulation Manager に持ち込んだとき、肝の方とは違い何年たっても上達しない英語を心の隅で呪いながらも、我が意を伝えんと、汗をかきかき説明している真最中に大きなあくび

をやられた。この時ばかりは全身の力が抜けていく思いがした。その後しばらくたって、今度は、出版社の交換嬢からまたもやあくびの洗礼をうけてからは、日本では想像もできないほど失敬なことが、ニューヨークではそれほど失敬なことではないのではないのだろうか？といささか気弱になったりもする。そう言えば、地下鉄の中であくびをしている女性は皆、口に手もあてず大口あけて平気だ。この点はまだアメリカの友人には確かめていないが……。

キノクニヤという発音は英語人種には非常にむずかしく、一種の早口言葉のようなもので、一度で正確に言えるアメリカ人はまずいない。このためはじめてのところへ電話などして、当方の社名を名乗る時にトラブルを起す。相手にとっても生れてこの方聞いたこともない無意味な母音と子音の組合せが、妙ななまりで、相手電話口で発せられれば、からかわれていると考えるのか、いたずら電話とでも勘違いするのか、虫の居所でも悪ければ相手のヒステリックな罵声を浴びるはめになる。善意の初心な電話主はこれでまず度肝を抜かれる。

正しい交渉相手にたどりつくまでがまた大変で、電話はしょっちゅうタライ回しにされる。その間に交換嬢のミスで接続が切れて、かけ直すことも一向にめずらしくない。正しい部門にたどりついて、正しい相手でなければ話は通じない。こみ入った話だったりすれば、「出来ない」「知らない」という“NO”表示か、いい加減な返事しか返ってこない。「上司に聞いてみます」「詳しくは担当者よりご返事致します」「担当部門に連絡をとり処理させます」などというあの日本でのなつかしい回答にはまずお目にかかれない。こちらから聞かないことは話さない。調べて折返し電話をするという約束も反古にされ

ることも少なくない（数日後に督促した時には、すでに相手は退職していたケースもある）。知りたければ何故聞かなかったのか、返事が欲しければ何故督促しなかったのか、という居直り論法で逆に説教を垂れ始められるのがおちだ。

ニューヨークの出社・退社時の風景は日本と変らない。ただ決定的に違うのはその緊張感が、出社と退社で丁度逆になっていることだろう。朝のラッシュに地下鉄、郊外電車が20分—30分遅れても誰も騒がない。車掌も遅延の説明を車内放送したりはまずしない。駅員にくっかかる乗客もいない。皆仕方がないといった風情で辛棒強く耐えている。ところが、退社時の真剣さは異様でさえある。何をあわてて帰る必要があるのか。ミーティングで退社時間30分ぐらい前にセマッタ相手のイライラは一段と高じてくる。退社時間丁度にとびだせる様、女性は帰り支度をはじめ、化粧に余念がない。かくて5:00かっきりマンハッタン島は家路へ急ぐサラリーマンで殺氣さえただよう。朝のノンビリ・ムードとは大違いだ。まして金曜の午後ともなれば、まず仕事にはならない。急ぎの用件でも交換嬢が出なかったり、相手がやる気がないので、こちらも自然と力が入らない。週休2日制とは言うものの、2・5日制が実体ようになってきている。

ニューヨークはCrazyな都市だ。多人種のモザイクが、自民族の価値感とCultureを各々主張し合い、非平均的な人間で構成された都市だ（アメリカにはアメリカ人などという民族はいない。しいて言えばアメリカ・インディアンしかいない）。

ニューヨークの誰もが、ニューヨークは狂っている病んでいると言う。これはまちがいに確かだ。しかし私も含めてその誰もがニューヨークの持つ魅力が測り知れないほど大きいことも知っている。

(Kinokuniya Publications Service of
New York Co., Ltd. 取締役支配人)

海外ニュース

「西ドイツの出版統計」

西ドイツ（西ベルリンを含む）の1976年の総出版点数は46,763点で、前年より3,100点余約7%の増加を示した。このうち初版は37,628点、重版は9,135点で、初版対重版の比は、81:19である。

ポケットブックは5,935点で全体の12.7%を占めるにいたった。この比率は10年前には5.4%にすぎず、10%を越えたのは1975年からである。ことに近年では学術書や専門書のペーパーバック化が進行しているようである。

翻訳書が総出版点数の中に占める比率は過去十数年来9.2%から12.5%の枠内にとどまっており、1976年も、5,499点で、全体の11.8%と例年並みの線に落着いた。

1976年の書籍の平均単価は20.52マルクで、前年の23.67マルクより13.3%も安くなった。全紙当りの価格も前年の1.94マルクから1.63マルクへと下っている。これは、出版社の極度の合理化の努力の反映と見られている。

(Buch und Buchhandel in Zahlen 1977より)

「ハーパー社が

リピンコット社を買収か」

J.B.Lippincott Companyは、11月23日、株式の交換によりLippincott社を100%取得したいという申し入れをHarper & Row, Publishers, Inc.から受けたことを発表した。Harper社の申し入れは、11月28日現在の株式市場の相場では1550万ドルに相当する。

清水英夫・金平聖之助・小林 博

「書店」 新書版 ￥600 教育社

2号つづいて同じシリーズがとりあげられることになった。本書は「産業界シリーズ」というユニークなシリーズのNo.62にあたる。この本でいう書店とは新刊和書店のことであって、われわれ洋書店や古書店などは含まれていない。

急ピッチで書店がふえているが（1976年に新たに開店した書店は約700、売場面積の拡張は約6,600平方メートル）、出版流通の問題はいっこうに解決されないだけでなく、ますます困難が加わっている。しかもアンバランスな書店の分布は、文化における一種の無医村状態をきわだたせている。しかももっとも重要なことは社会的責任に裏づけられた書店の存在がない限り、国民の読む権利は画の中の餅に等しいのである。こういう認識・問題設定が本書の基調をなしている。国民の基本的権利である言論・出版の自由も、しっかりした書店が存在しない限り、それは実現されないものである。書店のもつ大きな役割はいくら強調してもよい程である。

この本は、こういう正しい問題認識・提起の上に立って、書店とは何かを体系的にまとめあげたものである。書店をめぐるさまざまな問題を分析・判断・評価し、この重要なテーマを簡潔に整理している。そして書店がともすれば企業経営に走り、商品廻転のみによって運営される傾向に対して、書店のもつ文化的にまた政治的に大きな役割を強調している。

「第一章 出版業と書店の役割 第二章 出版流通

の変遷と日本の書店 第三章 書店経営の基礎知識 第四章 世界の小売書店業 第五章 書店の社会的責任」と理論的な解明を体系的にすすめた本書の第六章は「出版物の多様化と書店経営」と題する座談会である。80ページに及ぶこの座談会は大・中・小型の書店経営者と3人の共著者によるもので、現在の読書・流通状況のもとにある書店の多様な現象・問題をえぐりだしていきわめて興味深く、本書の圧巻ともいえよう。第四章の「世界の小売書店業」はわれわれ洋書流通にたずさわる者にとって参考となるところが多い。ただここでは若干の事実の誤りにも気がつく。

12月8日に「鹿島書店進出反対東京都書店総決起大会」がひらかれ、都内の書店のほか全国各地の代表ら650名が参加し、「鹿島建設をバックとする八重州ブックセンターの書店進出計画を白紙撤回させるまで闘おう」という決議文を採択した。出版界をも例外としない不況の下にあって、多店化、大型化、他業種からの進出という大きな問題をかかえ、書籍の流通問題はいっそう混迷を深めているようにみえる。われわれが日常経験するほしい本・必要な本がすぐ手にはいらない、書店員にきいても何もしらない、といった不満も解消しそうにない。本書がそういう問題の解決に直接役立つというわけではないけれども、こういう時に本書が出版されたことは、まず原点に立って書店とは何かということを考えてみる点から、まさに時宜に適しているといえよう。

(M.I.)

Lippincott 社は、このほかにも同社の株の67%を1株
 当り11.25ドルの現金で買いたいという申し入れを受けて
 おり、この両者およびそれに代るものを慎重に検討中で
 ある。

(Publishers Weekly、12月5日号より)

——紀伊國屋書店提供——

来 日 外 人 名 簿

11月下旬 Mr. Brian Hulme, Area Sales Manager, Overseas
 Sales Dept., Cambridge Univ. Press.

// Mr. Paul A. Rothman, Vice President, Fred B.
 Rothman & Co.

// Mr. Robert B. Ellis, Marketing Director, Raven
 Press.

// Mr. John Spragg, Overseas Marketing Director,
 Associated Book Publishers Ltd.

12月上旬 Mr. Edward J. A. Marquis, Export Sales
 Manager, Penguin Books.

// Mr. Thomas Karger, President, Karger.

// Mr. David Kelley, Marketing Director, Hough-
 ton Mifflin Company.

// Miss Louise S. Sloane, International Dept.,
 Houghton Mifflin Company.

// Mr. Eric J. Newman, Regional Sales Manager,
 East Asia. The Butterworth Group.

12月中旬 Mr. Antan Gerits, Head, Autiquarian Dept.,
 Dekker & Nordemann.

通 関 統 計

外国貿易概況 (大蔵省関税局編、日本関税協会発行)

1977年月9号所載。

書籍、新聞、雑誌の輸入額。

昭和52年9月 \$ 11,225,000 1月以降累計 \$ 87,516,000

昭和51年9月 \$ 7,498,000 " \$ 69,606,000

(註) この統計は、CIF 価格で10万円以下の少額貨物は
 含まない。

総 代 理 店 ご 案 内

次の通り日本総代理店の案内がございました。

お手許の Agent List にご記入願います。

丸 善 (株) ☎ 272-7211

History of Mankind: Cultural and scientific development.
 6 Vols. in 14 Books. '78. 7314 p. (G. Allen & Unwin,
 London) ca ¥66,000

Proctor, P. and A. W. Frisby. (eds.)—Longman Dic-
 tionary of Contemporary English. '78. 1088 p.
 (Longman, London) ca ¥2,880

在庫

●日本数学会編集翻訳●

英訳版 岩波数学辞典

Encyclopedic Dictionary of Mathematics

〔共編〕 彌 永 昌 吉

河 田 敬 義

1750頁・1977年10月出版

全 2 巻

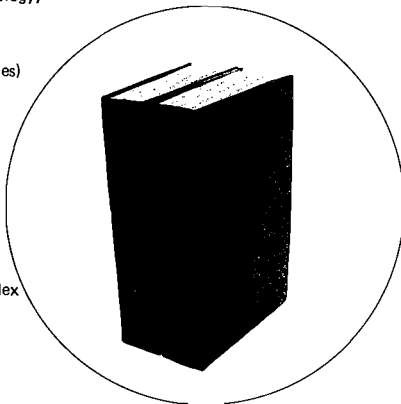
特価 33,000円

定価 57,750円

(1978年3月1日以降)

(The M.I.T. Press)

1. Logic and Foundations
2. Set Theory, General Topology, and Category Theory
3. Algebra
(Fields, Rings, and Modules)
4. Group Theory
(Finite, Topological, and Lie Groups)
5. Number Theory
6. Euclidean and Projective Geometry
7. Differential Geometry
(Differentiable and Complex Manifolds)
8. Algebraic Geometry
9. Algebraic Topology
10. Analysis
(Calculus, Measure Theory, Infinite Series,



- Fourier Analysis, Potential Theory, and Calculus of Variations)
11. Functions of One and Several Complex Variables
12. Functional Analysis
13. Differential, Integral, and Functional Equations
14. Special Functions
15. Numerical Analysis and Computer Science
16. Probability
17. Statistics
18. Mathematical Programming, Operations Research, and Information Theory
19. Mechanics and Theoretical Physics
20. History of Mathematics

日本数学会編輯の岩波数学辞典第2版(1968年)の英訳版が、今度 M. I. T. Press より刊行されることとなった。数学辞典の英訳刊行は、これまでも何度か企画されたが、種々の困難のため実現されなかった。今回やっと多くの努力が実って実現の運びとなったのである。これは、まず日本版の忠実な英訳を第一に心がけた。ただし、文献については、外国人の読者の便宜をはかるために、多くの追加をした。また、日本版刊行以降年月もたっているのて、今回新しい項目は追加しなかったが、全体の約10%ほどの項目については、最小限の書き換えと、部分的追加とを行なった。例えば、カタストロフ理論とかグラフ理論などは、日本版には含まれていなかったものを追加した。また索引は、事項索引および人名索引ともに拡充して、使いやすくなっていると思われる。

英訳は、大部分日本人の執筆が自身が行ったが、術語の統一を計り、また文体の調整もかなり念を入れて何人かの人々の目を通して行なわれた。英訳版完成にいたったのは、日本数学会の多くの会員の協力と奉仕によるものである。また、アメリカ数学会の有志の方々の助力も見逃すことができない。元来、英訳版は外国人のために刊行されたものであるが、これらの多くの人々の努力が、わが国の数学研究者にとっても、いろいろの点で役立てば幸である。

河 田 敬 義



ユナイテッド・パブリッシャーズ・サービス社

東京都千代田区麹町4-1 志村ビル 〒102 ☎(03)-262-5278(代)

UPS / 7712

昭和53年1月 通巻129号 洋書輸入協会 編集者 寺久保一重

☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目20番3号 藍沢ビル302号室 ☎ 271-6901

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田町28 第一山中ビル ☎ 371-5329